

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 8/15 }
平成30年(2018年)
No.2235

杉並の路上に参上する
緑のレンジャーは誰？

方南町の一角。ある時はホウキを持って道を掃き、ある時は駅で困っている人の手伝いをする。緑色のコスチュームに身を包んだ、そんなレンジャーを見掛けたことはありませんか？ 彼の名は「ベビーカーおろすんジャー」。この町の子どもたちの人気者です。彼が主催する「おろすんまつり」を訪れ、レンジャーの秘密を探りました。



特集



すぎなみピト

ベビーカーおろすんジャー

Contents — 主な記事 —

7 | 水害への備え 9 | 9月は秋の自殺予防月間です 11 | 被災地・岡山県総社市等へ職員を派遣しました 16 | 9月は杉並区の認知症普及啓発月間です

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

ヒーローでも何でもない。町の皆さんに支えられて楽しく活動しています。



すぎなみピト



interview
ベビーカー
× おろすんジャー

プロフィール：ベビーカーおろすんジャー。大学進学を機に上京以来、地域の方々の温かさに魅せられ方南町を愛し続けている。その名とおり、ベビーカーの階段昇降の手伝いや町の清掃、親子で楽しめるイベントなどを開催し、地域を盛り上げている。

—ベビーカーおろすんジャーさん（以下、おろすんジャーさん）はベビーカーを下ろすお手伝いだけでなく、今日のようなイベントも開催されているのですか。

はい、毎月1回「おろすんまつり」を開いています。地域の方に協力してもらいながら2年ほど続いています。今日は台風の影響で予定していたキッズバザーが中止になってしまい、小さな会になりましたが、子どもたちが楽しんでくれてうれしかったです。みんなが元気に割ってくれたスイカ、おいしかったですね。

—どのような経緯でこうした地域活動を始めたのですか？

ベビーカーおろすんジャーになったのは6年ほど前なのですが、最初にこのコスチュームで町に出発したのは、もう10年以上前です。僕は大学生になる時に田舎から出てきて方南町で暮らし始めました。心配性の母は「東京は冷たい所だから気を付けなさい」とよく言っていて、僕もその感覚で上京したのですが、実際に暮らすと全然そんなことない。商店街の食堂に1カ月も通えば名前が呼んでくれるようになり、「しっかり食べなさいよ」とお総菜を持たせてくれることもあって。その温かさに育ててもらったという思いがあったので、町のために何かしたいと考えて始めたのが近所の掃除だったんです。

—そうだったのですか。なぜ緑のレンジャーコスチュームなのですか？

故郷の母にも言われました、「何でそんな格好せんとできんの？」と。でも恥ずかしがり屋なので。何か身を隠すものはないかとクローゼットを探したら、学生時代に学園祭で使ったこのレンジャースーツがあったので着ることにしました。5色ある中から選んだのは、いちばん自分っぽい「緑」。赤＝リーダーの器でもないし、青はだいたいイケメン枠ですからね（笑）。



—ベビーカーを下ろし始めたのはなぜですか？

ある時、仕事先の青果店でベビーカー連れのお客さんと世間話をしていると、今から電車に乗るのに30分歩いて隣駅まで行くのだと耳にして。「なぜわざわざ？」と思って理由を聞くと、当時は方南町駅にエレベーターがなかったため、隣駅まで行くと言うんです。それまで幾度となく方南町駅を使ってきた僕ですが、そんなことにはまったく気付かなかった。困ったこともなかったし、考えもしなかったわけです。でも、駅で同じように困っている人がいるならと思い立って、翌日から駅に立ち始めました。「ベビーカーおろすんジャー・ベビーカーや大きな荷物を下ろします」と書いた黒板を持って。

—その日から6年間続けていらっしゃることに感服です。

いえいえ、恐縮です。エレベーターが駅に設置されて皆さんとても喜んでいらっしゃいますし、僕も皆さんの念願がかなってうれしいです。それでも時々僕の出番もありますので、今でも週に2日くらいは駅に立ちます。掃除は毎日続けています。当初は「変な格好してるのがある！」と言われることも多かったのですが、最近はこの緑のレンジャー姿もすっかり町になじんできたようで、驚かれたりすることはめっきり減りましたね。きっと日常の風景になりつつあるのでしょう。それはうれしくもあり、ちょっと寂しくもあります（笑）。

食・学・防災を子どもたちと楽しく

—町のために活動するおろすんジャーさんの原動力って何でしょう？

人との触れ合いが好きで、あとは子どもたちのために何かしたいという思いでしょうか。僕自身が田舎の団地育ちで、家族じゃなくてもいつも誰かが近くにいて遊んだり声を掛けてくれるのが自然だったからかもしれません。



左からすずかちゃん・あみちゃん（小学2年生）

近くに住んでいて、よく遊びに来ているよ。前にクレープ屋さんの職業体験をした時が、特に面白かったな。



ゆうくん（小学4年生）

いつもいろんなことができて楽しい。今日はスイカ割りとか防災訓練とかスーパーボールすくいをしたよ。

みんなで楽しみながら学べる防災訓練（おろすん防災）。いざという時に役立つといいな。

—子どもたちのために、と考えるようになったのはなぜですか？

おろすんジャーを何年か続けてきたので、始めた頃にベビーカーに乗っていた小さな子が小学生になり、会えばちょっとした会話を交わすようになりました。すると急に子どもたちの様子が気になり始めて、「あの子いつも3人組で帰っているのに今日は1人だな、何かあったのかな」とか。それで声を掛けてみると、子どもなりに悩みを抱えていたりする。それなら子どもが元気になれるようなことを何かやりたいな！ と考えたのがきっかけです。

—おろすんまつりでは、毎回さまざまな催し物があるそうですね。

おろすんまつりには、食・学・防災というテーマがあるんですよ。どんなこともできるだけ子どもたちが参加し、体験してもらえるように工夫しています。防災テーマでは、杉並区から車椅子や起震車を借りて、子どもたちと体験したこともありました。3つのテーマを通して、子どもたちの力があふれる、たくましい町になったらいいなと思っています。でも「子どもたちのため」と言いながら、実は僕自身が子どもたちと一緒に学びたい、遊びたいという気持ちが大きいんですよ。ずっと続けてこれたのも、何より僕自身が楽しいからです。

一緒に町を盛り上げてくれる仲間が増えたらうれしい

—ベビーカーおろすんジャーが引退する日は来るのでしょうか？

いえ、おろすんジャー引退の予定はありません。役に立てるかぎりは町を支えていきたいですし、もちろん皆さんに支えてもらうこともあると思います。そうそう、こんなレンジャーの格好をしています。僕はヒーローでも何でもありません。助けることもあれば、皆さんに助けてもらうこともたくさんあります。

—おろすんジャーさんのように町の役に立ちたいと考えている人もいます。

仲間になってくれる方がいたら大歓迎です。地域のあちこちで小さなイベントが生まれていって、なんだかいいですね。毎日どこかでイベントがあってもいいくらい。駅に立っていると、休日は利用者がとても多くて、みんな電車に乗って新宿とか吉祥寺に遊びに行ってしまうのが目下の夢です（笑）。そのために、一緒に町を盛り上げてくれる仲間がたくさん増えたらうれしいです。もし僕で力になれることがあれば喜んで協力しますので、ぜひ声を掛けてください。緑の自転車に乗って駆け付けますよ！



みんなが平等に楽しめるように おろすんまつりで流通する オリジナル紙幣「変ドル」

おろすんまつりでは、子どもたちは現金が使えません。その代わりにまつりで流通するのは、方南町のへんな仲間たちで作ったオリジナル紙幣「変ドル」。子どもたちがまつりの中で手伝いや体験をするとカードにスタンプが押され、そのスタンプと引き換えに変ドルがもらえます。変ドルはまつりの中で使えるほか、商店街の指定店舗でも利用できます。お小遣いを持っている子もそうでない子もみんなが楽しめるように、おろすんジャーさんの思いが込められています。



あるお母さんは、「自分で稼いだ変ドルを持って帰ってきて、ちょっと照れながら『ママ使っていいよ』と私にくれるんですよ。おろすんジャーと遊びたくておまつりに行くのですが、その中で知らず知らずのうちに学んでいることもたくさんあるように思います」と話してくれました。

「おろすんまつり」の情報は、おろすんジャーさんのツイッターをチェック！ アカウント：@babycarorosunja

Check!